

## 地震災害予測研究会（第6回）議事要旨

日 時：平成24年11月12日(月) 14:00～16:15

場 所：貸し会議室プラザ 八重洲北口 5階3号室

出席者：（順不同、敬称略）

（委員）北川良和 翠川三郎  
和泉正哲 境有紀 林康裕

（機構）大滝(リスク業務室長)

（事務局）損保料率機構リスク業務室

議 事：

### 1. 住宅の損壊被害予測手法に関する研究について

A. 研究事業の委託先より、被害率関数の作成区分の検討のため、地震保険実績データに基づき、構造や建築年代等の建物属性による被害率の違いを分析した結果を報告した。また、木造建物の地震応答解析方法に関する検討の進捗を報告した。

B. 委員から、下記の意見があった。

- 1) 被害率関数の区分を決める際は、被害率の統計的な手法による分析だけでなく、工学的な説明も重要である
- 2) 地震保険実績データの集計単位を細かくすると、結果が歪む可能性があるため、全体の傾向を把握しておくことも重要である。
- 3) 地震応答解析に使う復元力特性やパラメータの設定に関し、既往の工学的知見を踏まえて構造的な特徴を反映できるようにすることが重要である。
- 4) 応答スペクトルの形状により被害率は大きく変わる可能性がある。その変化の大きさを確認すべきである。

以 上